



教育に新聞を

# 2021年度 大分県NIE 実践報告書

# 目 次

## 《実践報告》

小規模校の特性を生かしたN I Eの実践 ～委員会活動と図書館司書との連携～

中津市立三郷小学校 臨時講師 瀬口 保美・・・ 2

自分の考えを持ち、伝えあえる子どもの育成を目指して ～新聞活用を通して～

佐伯市立八幡小学校 教諭 川野 弥生・・・ 4

新聞活用の継続による確かな学力の定着 ～N I Eでも「緑中は一つ」～

竹田市立緑ヶ丘中学校 教諭 佐藤 美登里・・・ 8

自ら学び、みんなで学び、社会とつながるN I E ～SDG sの学習を通して～

大分市立戸次中学校 教諭 小野 友祐・・・ 12

「社会の出来事を知り、お互いに学び合おう」 ～「発信」→「交流」→「深める」～

日田市立戸山中学校 教諭 三浦 僚太、高浪 祐一・・・ 16

新聞を通して考える 社会と自分 ～新聞を通して様々な文章に触れる機会の確保～

大分県立大分舞鶴高等学校 教諭 道中 聡・・・ 20

新聞で学びを深める ～食物科、看護科における、社会と関わろうとする専門教育を目指して～

別府溝部学園高等学校 教諭 堀井 忠大・・・ 24

新聞を通して考える 社会と自分 ～社会の一員としての多様な力を育む方法を探る～

大分県立佐伯豊南高等学校 教諭 小坂 吏香・・・ 28

《2021年度大分県N I E実践指定校》《2021年度大分県N I E推進協議会の活動》・・・ 32

《N I E実践研究会とN I E子ども会議》・・・ 33

《大分県N I E推進協議会 会則》・・・ 34

《2021年度大分県N I E推進協議会役員等》・・・ 36

【おことわり】この報告書に記載されている所属・肩書は、2021年度当時のものです。

# 小規模校の特性を生かしたN I Eの実践

## ～委員会活動と図書館司書との連携～

中津市立三郷小学校 臨時講師 瀬口 保美

### 1. はじめに

今年度の本校は、全校児童53名（2・3年複式学級）で、学級担任6名（内教諭3名）の小規模校である。

日常的に異学年と交流する活動が多く、高学年が低学年にタブレットの使い方を教えたり、朝読書の時間に読み聞かせを行ったりしている。

また、全学年を縦割りで構成する班で毎日の清掃活動に取り組み、学年を跨いで交流を深めることで、体力づくりの取組や学校行事の取組を効率的に行えるようにしている。

さらに、本校は「三郷小学校みどりの少年団」として活動しており、生活科や総合的な学習の時間に探求的課題を設定して全学年で地域に根差した取組を推進している。

以上の本校の特性をもとに、N I Eをいかに効果的に活用できるのかを模索した内容を1年目の実践報告とする。

### 2. 取組の基本方針

学校の教育目標である「課題に気づき 深く考え 意欲を高めて挑戦する児童の育成」の実現を目指すため、以下の点をN I E実践における基本方針とする。

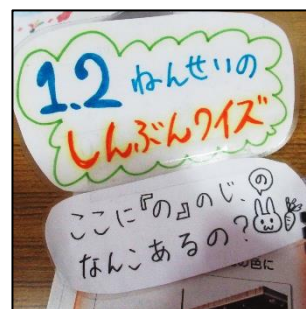
- ・児童の興味・関心・意欲を高める
- ・教育課程で幅広く連動させる
- ・みどりの少年団の活動目的を意識する
- ・委員会活動（縦割り活動）を活用する
- ・図書館司書と連携して取り組む
- ・取組期間・内容の精選
- ・教職員の負担軽減

### 3. 実践事例

前項の基本方針をもとに、実践期間は2学期（9月～12月）、対象児童を4・5・6年生とする。取組内容は、以下の2点を中心としながら、N I E担当が図書館司書と連携して進める。

#### ①新聞に親しむ活動

図書館司書が図書室前のスペースを活用してスクラップブックを展示している。それぞれカテゴリー別に冊子になっていて、児童の興味を引くような工夫をしていたり、タイムリーな記事をもとにクイズを出題していたりする。



#### ②新聞を活用した取組

下の写真は、教育課程の内容と連動させて取り組んだ学年の授業の様子です。新聞の紙面構成について考えたり、関連のある記事を切り抜いてまとめたりしました。



「三郷小学校みどりの少年団」の目的には、防災意識を高める内容が含まれています。

新聞記事は、図書館司書がスクラップブックにまとめて展示したり、掲示物にも多く使用されたりしました。



4・5・6年生の委員会活動では、時事内容や興味を持った内容を中心に、記事を紹介する掲示物を作りました。



#### 4. まとめと今後の課題

今年度は、NIE実践の初年度にあたり、小規模校の特性を生かした実践の在り方を模索してきた。その結果として、成果と課題を以下のようにまとめることとした。

まず、成果として、GIGAスクール構想やコロナ禍により、教職員一人ひとりの仕事量が増大している昨今、新しく何かを始めるのではなく、目標達成のための手段をブラッシュアップさせるという意識を持つことができたこと。

本校のような限られた人的資源を活用するためには、担当者を含めたそれぞれの教職員の意識改革が必要だと考え、図書館司書と連携して実践できるように目的や内容を精査したり、取

組期間を限定したりしたことは、今後につながる成果と言える。

本校のような規模の学校でも、取り組み方や意識を変えれば効果的に実践できるということが確認できた。

次に、課題として、NIEを効果的に活用するための教育課程の編成である。図書館活用教育や総合的な学習の時間の全体計画とのつながりも含めて今後改善する必要がある。

本校が育成を目指している資質・能力「言語能力・問題発見解決能力」の習得に向けて、どのようにNIEを活用していくのかを今後の検討課題としたい。

# 自分の考えを持ち、伝えあえる子どもの育成を目指して

## ～新聞活用を通して～

佐伯市立八幡小学校 教諭 川野 弥生

### 1. はじめに

本校の教育目標は、「確かな学力と豊かな心を身につけ、何事にも自ら考え行動できる児童の育成」である。それを受け、「主体的に学び、自分の考えを持ち、伝え合える子どもの育成」をテーマに掲げ、研究を深めている。また、今年度NIEの実践指定を受け、新聞を利用して子どもたちの思考を広げ、表現する活動を通して、社会や地域についての理解を深めていくことを目指して取組を進めてきた。以下に本年度の実践を紹介する。

### 2. 本年度の実践について

#### (1)NIE 理解を図るための教職員研修

講師:佐藤由美子先生(日本新聞協会 NIE アドバイザー)より、「未来を切り拓く子どもを育てる新聞活用の充実～NIE の意義と活用について～」

教職員でNIEについて共通の認識を持った上で取り組めるように、校内研修に講師を招いて学習会を行った。学習内容を各自の人生や社会のあり方と結び付けて理解し、より良い社会をつくるためにどうすればよいかを考え、主体的に考え行動する子どもの育成を目指していることを確認した。また、具体的な新聞活用例などの紹介もあり、今後のNIEの取組に向けて見通しを持つことができた。



#### (2)新聞に親しむための環境整備

##### ①NIE コーナーの設置

「大分合同新聞、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、西日本新聞」の5紙を児童玄関に掲示し、日常的に新聞に触れ、閲覧できるようにした。

新聞社によって1面のトップ記事の取り上げ方に違いがあることが子どもたちの目に留まるように意図的に掲示した。また、新聞をめくって閲覧できるように、テーブルの上に広げて置くようにした。すると休み時間に広げて読んでいる姿や、掲載された記事について友だちと話し合っている姿等を少しずつ見かけることができるようになってきた。



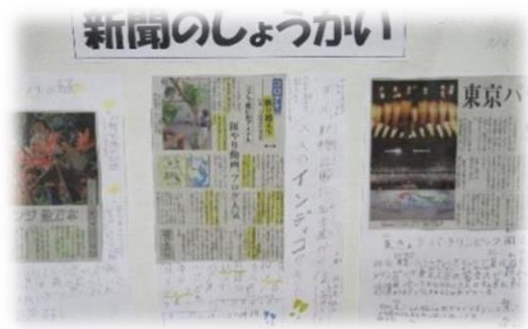
##### ②広報委員会による発信

広報委員会担当の教員が社会や身近な地域のことや児童が興味を持ちそうな記事を選定し、広報委員がその新聞記事についての意見や感想を書き、全校児童の目に触れる場所に掲示した。

新聞の定期購読を行っている家庭が半数以下という地域事情の中で、新聞を読むことに大きな抵抗を感じている児童は少なくない。そこで、広報委員会担当の教員が、広報委員会の児童に身近な社会的な新聞記事を提示し、



その記事についての意見や感想を書かせて、全校児童へ向けて発信している。低学年児童も読むことができるように、漢字には読み仮名がふられている。子どもたちにとっては、自分の知っている上級生が書いているコメントには親しみを感じ、立ち止まって読んでいる子も次第に増えてきた。2週間サイクルで新しい情報が掲示され、既に掲示されていたものは、子どもたちの通る階段の掲示スペースに移動させて貼ってあり、バックナンバーをいつでも見ることができるようにしている。



### (3) 各学級による発信

低・高それぞれの部会で、付けたい力を見据え教育課程を見直した。そして、新聞活用を効果的に取り入れることができそうな単元の洗い出しを図った。

- 1～3年『はっけん新聞』『野菜新聞』『まちたんけん新聞』（生活科・理科）
- 4～6年『広報委員会の意見から考えたこと』『新聞記事を読んで意見文を書く』『歴史新聞』（国語・社会・特活）

### (4) 児童が社会に興味を持ち主体的に関わろうとする意識を育てるための新聞活用

#### ① 日常的な取組

#### 【新聞ワークシート】

毎週金曜日に週末課題として取り寄せ、よく月曜日の朝学習の時間に答え合わせをする。目的…タイムリーな社会的話題に触れ、新聞を読み解く力を身に付けさせる。

### 【朝のスピーチ】

『朝の会』の時間に、日直が新聞記事についての感想などを発表する。

目的…1. 2年生は広報委員会が作成した新聞記事についての意見や感想を基に、3年生以上は各自が選んだ新聞記事について、全校統一したワークシートに感想や意見を事前にまとめ、朝のスピーチで発表し、自分の考えを伝える楽しさを味わわせる。

### 【広報新聞への感想】

広報委員がその新聞記事についての意見や感想を書き、全校児童の目に触れる場所に掲示する。

目的…他者の意見に対して自分の感想を書いて伝えることで、他者とつなげる楽しさを味わわせる。



### (5) 系統的な付けたい力

「付けたい力」の系統性を明確にし、教師が意識して取り組ませていきたいと考え、学習指導要領国語科における知識・技能及び思考・判断・表現のどの指導事項に該当しているのかとの関連を表にまとめた。上段は知識及び技能における情報の扱い方に関する事項、下段は「読むこと」における指導事項を表している。

読解力に関する事項	付けたい力		
読解の過程	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
読解の目的	第1学年及び第2学年 1 読解の目的を明らかにし、必要な情報を取り出すことができるように指導する。	第3学年及び第4学年 1 読解の目的を明らかにし、必要な情報を取り出すことができるように指導する。	第5学年及び第6学年 1 読解の目的を明らかにし、必要な情報を取り出すことができるように指導する。
読解の過程	第1学年及び第2学年 2 読解の目的を明らかにし、必要な情報を取り出すことができるように指導する。	第3学年及び第4学年 2 読解の目的を明らかにし、必要な情報を取り出すことができるように指導する。	第5学年及び第6学年 2 読解の目的を明らかにし、必要な情報を取り出すことができるように指導する。
読解の表現	第1学年及び第2学年 3 読解の目的を明らかにし、必要な情報を取り出すことができるように指導する。	第3学年及び第4学年 3 読解の目的を明らかにし、必要な情報を取り出すことができるように指導する。	第5学年及び第6学年 3 読解の目的を明らかにし、必要な情報を取り出すことができるように指導する。
読むこと	第1学年及び第2学年 1 読解の目的を明らかにし、必要な情報を取り出すことができるように指導する。	第3学年及び第4学年 1 読解の目的を明らかにし、必要な情報を取り出すことができるように指導する。	第5学年及び第6学年 1 読解の目的を明らかにし、必要な情報を取り出すことができるように指導する。
知識・技能	第1学年及び第2学年 1 読解の目的を明らかにし、必要な情報を取り出すことができるように指導する。	第3学年及び第4学年 1 読解の目的を明らかにし、必要な情報を取り出すことができるように指導する。	第5学年及び第6学年 1 読解の目的を明らかにし、必要な情報を取り出すことができるように指導する。
思考・判断・表現	第1学年及び第2学年 1 読解の目的を明らかにし、必要な情報を取り出すことができるように指導する。	第3学年及び第4学年 1 読解の目的を明らかにし、必要な情報を取り出すことができるように指導する。	第5学年及び第6学年 1 読解の目的を明らかにし、必要な情報を取り出すことができるように指導する。

### 3. 授業実践

(1) 第6学年 社会科 7時間扱い

単元名 『戦争と人々の暮らし』

#### ○学習活動

修学旅行で訪問した建物の写真や新聞記事を用いて、戦争の被害の様子を調べ、学習問題を作り、学習計画を立てることができる。

#### ○NIEの活用

教師が用意した新聞記事に書かれてある戦争体験者の投書を用いて、自分たちの住む大分県での空襲の様子から、戦況に苦戦した要因やこのような戦争が起こってしまった背景等、今後の授業で知りたいことや調べたいことをまとめる活動を通して、戦時体制中の人々の様子についての関心を高めさせる。

#### ○本時のねらい

戦争体験者の新聞の投書から、当時の戦争と人々の暮らしの様子を調べ、学習問題を作り、学習に見通しを持つことができる。

#### ○授業の展開 (1/7 時間)

1. 前時までの復習を通して、「日本は国際社会の中で重要な位置にいることと日清戦争・日露戦争に勝っている」ことを確認する。
2. 本時のめあてを知り、修学旅行で学んだことを確認する。
3. 新聞記事からわかったことと、これから調べたいことを付箋にまとめ、KJ法を用いて班や全体で交流する。
4. 学級で扱う学習問題をロイロイトとGoogle フォームを用いて、自分が調べたい学習問題を投票し、その結果を全体で交流する。
5. 本時の振り返りを行う。

#### ○NIEについての振り返り

教師が選定した記事が地元のことを取りあげていたものなので、子どもたちの興味

や関心を引き付け、学習課題をより自分事として捉えることができていた。

「自分の考えを持つ場面」では、新聞記事から知りたいことやさらに詳しく調べたいことについて各々が意欲的に記述していた。ことからNIEは有効であったと考えられる。その理由として日頃から新聞を読み、スピーチ原稿を作成していることで、要約する活動に慣れていたことが考えられる。また、「班で考えを交流する場面」では、各自の考えを班で考察して適切な見出しをつけることができていた。その活動の際、まとめた内容を言葉で説明することなく、付箋を貼って、交流することにとどまっていた。話し合い活動の交流の在り方についての研究は今後の課題である。



(2) 第5学年 社会科 8時間扱い

単元名 『未来をつくり出す工業生産』

#### ○学習活動

中小工場で活躍する人が記載されている新聞記事を用い、話し合うことを通して、中小工場の生産の特色をとらえる。

#### ○NIEの活用

新聞記事「ものづくり輝く主役は人」について、3つの視点を知らせ、内容の読み取りを家庭学習で行わせておく。本時では、各自読み取ったことをもとに、中小工場働く人々の工夫や努力をまとめる活動を通して、中小工場の生産の特色や工業生産に果たす中小工場の役割を捉えさせる。

### ○本時のねらい

日本の工場のほとんどが中小工場であり、高い技術で日本の工業生産を支えていることについて、教科書のグラフや中小工場で活躍する人々の努力や工夫が記載された新聞記事を調べたり、話し合ったりすることを通して捉えることができる。

### ○授業の展開（3/8時間）

1. 大工場と中小工場の写真とグラフを確認し、本時の目当てを知る。
2. 日本の大工場と中小工場の違い3点（工場数の割合、働く人の割合、生産額の割合）について知り、本時の課題をつかむ。
3. グループで交流する。

(1) 新聞記事を3分割し、それを3つの「調べグループ」で役割分担して調べ、読み取ったことを付箋にまとめ、グループで交流する。

(2) (1) でまとめた内容を「まとめ学習グループ」に持ち寄り、気づきや考えを1人ずつ発表し、中小工場の特色についてベン図を用いてまとめる。

4. 中小工場の特色について「調べグループ」でまとめたベン図を基に全体交流を行う。
5. 本時の振り返りを行う。

### ○NIE についての振り返り

「自分の考えを持つ場面」では、子どもたちは各自の考えを持つことができていた。理由として、新聞記事から必要な情報を取りだす学習方法が理解できていたことと子どもたちが活動をする目的を自覚していたことが考えられる。日頃から、帰りのスピーチでは、新聞記事を通して気付いたことや考えたことを発表しているので、必要な情報の取り出し方や取り出した情報のまとめ方の具体的な方法を理解していた。そのため、本時においても学習課題を引き受け、中小工場の特色を捉えることができていたと考えられる。「考えを

交流する場面」では、各自の考えの根拠を言葉で伝えずに、付箋を貼って伝える活動で終わっているグループが多くあった。互いの考えの相違を明確にしていなかったため、話し合いの視点が曖昧になったためと考えられる。教師自身が子どもたちにどのような思考をさせ、どのような話し合いをさせたかったのかを想定して、話し合い活動を仕組んでいくことが必要であった。



### 4. 意識調査アンケート

調査項目	小学校	中学校	高等学校
新聞記事の活用	新聞記事の活用は、授業で活用している。新聞記事の活用は、授業で活用している。新聞記事の活用は、授業で活用している。	新聞記事の活用は、授業で活用している。新聞記事の活用は、授業で活用している。新聞記事の活用は、授業で活用している。	新聞記事の活用は、授業で活用している。新聞記事の活用は、授業で活用している。新聞記事の活用は、授業で活用している。
新聞記事の活用	新聞記事の活用は、授業で活用している。新聞記事の活用は、授業で活用している。新聞記事の活用は、授業で活用している。	新聞記事の活用は、授業で活用している。新聞記事の活用は、授業で活用している。新聞記事の活用は、授業で活用している。	新聞記事の活用は、授業で活用している。新聞記事の活用は、授業で活用している。新聞記事の活用は、授業で活用している。
新聞記事の活用	新聞記事の活用は、授業で活用している。新聞記事の活用は、授業で活用している。新聞記事の活用は、授業で活用している。	新聞記事の活用は、授業で活用している。新聞記事の活用は、授業で活用している。新聞記事の活用は、授業で活用している。	新聞記事の活用は、授業で活用している。新聞記事の活用は、授業で活用している。新聞記事の活用は、授業で活用している。

新聞活用に対するアンケートを取り、意識調査を行った。学年が上がるにつれ、好きと答える児童が減る傾向を示している。このことから、このような活動は早い段階から取り組んでおく方が抵抗なく取り組める。本校のNIEの取組は、新聞を読んだり、感じたことを書いたり、伝え合ったりすることを中心に行っているため、子どもにとって必ずしも楽しいことばかりでは無いが、力をつけてきていると児童自身が自覚していることは確かである。

### 5. おわりに

子どもたちは、新聞活用を通して社会の出来事や様々な人々の生き方・考え方に触れ、多面的に物事をとらえることの大切さに気付くだろう。社会に興味を持ち主体的に関わろうとする態度を育てるため、実践内容について全教職員で共通理解を図り、よりよいNIEの在り方を探っていきたいと思う。



# 新聞活用の継続による確かな学力の定着

～NIEでも「緑中は一つ」～

竹田市立緑ヶ丘中学校 教諭 佐藤 美登里

## (1) 学校としての取り組み

本校では「自ら学び、互いを認め合い、自己を高める生徒の育成」という学校教育目標を掲げている。その目標達成のための方策の一つとして、NIEの推進を明示している。本年度も生徒の実態や状況を踏まえ、より効果的かつ持続的な取り組みを全教職員で意思統一し、実践している。

環境整備として、昨年度までと同様、最も広い掲示板を「NIEコーナー」にして、「新聞一面読み比べ」「注目記事」「高校受験生のページ」等のスペースを固定し、毎日更新している。また、いつでも、どこでも新聞に出合えるように生徒玄関や生徒棟の5か所に設置している「立ち読み場」も、機を捉えて、趣向を変えながら継続している。

本校が「新聞のある学校」であることは、地域の方々や近隣の学校でも知られているし、生徒に嬉しい感想や激励も頂いている。



《1・2年前期》本校図書館の本を読み、読破ページ数を記録し、読書生活を豊かにする。

《1・2年後期》週に2回、短く秀逸な文章である新聞のコラムを読み、思考を深め、考えたことを意見文として書くことで、読解力や表現力を身につける。

《3年》コラム学習に週4回、取り組む。

使用するワークシート（「読得シート」）は複数の新聞のコラムを取り上げ、手作りしている。適宜、コラム以外の新聞記事も利用する。学年部職員全員で監督やコメント入れ等、必要な支援をしている。生徒会学習部の活動内容の中に生徒自身が『「読得タイム」の充実』を掲げ、声かけや読破ページ数による「多読賞」の表彰、優れた「読得シート」の紹介等も行う。

最初は20分間集中できない生徒もいるが、続けるうちに、目的意識をもって臨み、読み書きのために大切な姿勢を維持することや、合理的な筆記用具の使い方にも慣れてくる。週2～4回行うことで、生徒が自身の成長や取り組みの様子をメタ認知できる。新聞記事に触れることで視野や知見を拡げることにつながる。テストでの記述問題の無解答率は極めて低く、記述に対する苦手意識が確実に小さくなる。生徒にとってメリットの多い学習活動となっている。

## (2) 実践事例

### ◇ 全校「読得（とくとく＝造語）タイム」

優れた文章や表現に出合い、思考を深め、感性を磨き、表現力を身につけるという目的で月～木、各20分間、全校挙げて実施している。本年度は私が赴任して以来8年目の取り組みである。生徒の実態と付けたい力を検討し、以下のように計画し、実行した。



## ◇ 国語科の取り組み

### ①教育課程の見直し

本年度から使用する教科書は、教材や内容が大きく変わっている。昨年度末に仕上げた教育課程に則って授業を進めながら、NIE との関連付けを図り、生徒に力を付けたい。

### ②1年「野菜新聞！」

6月の教科書教材「ダイコンは大きな根？」の発展学習としての位置付け。身近な野菜の一つ選んで観察したり、タブレットや図鑑で調べたり、家族に聞いたりして、分かったことや考えたことを「野菜新聞」としてまとめた。題字や見出しの付け方、説明の仕方、図等を工夫し、野菜の魅力が伝わるような紙面構成を熟慮した。仕上げた作品は印刷し、冊子にまとめ、PTAで紹介したり、各教室や図書館、展示コーナーにも置き、誰でも読めるようにしたりした。生徒にとって初めての新聞作成であったけれど、集中して頑張り、褒められ、満足していた。



### ③2年「気になる『職業新聞』」

5月の教科書教材「多様な方法で情報を集めよう 職業ガイドを作る」では、クラスで一冊の職業ガイドブックをまとめ、感想を交流する学習活動が組まれている。示されている紙面作成のポイントは新聞作成にそのまま生かせることを確認した上で、自分の気になる職業について、タブレットや図書で調べたり、身近な人にインタビューしたりして考えたことを新聞として完成させ、発表会をした。感想交流では「みんな違う職業を調べていて面白かった」「色々な仕事があって、それぞれいいなと思った」「まとめ方の工夫を見習いたい」と互いに良い刺激に

もなった。授業後、校舎のメイン通路の掲示板に張り出した。来客の方々から「たいへん褒められ、生徒の自信にもつながった。」



### ④3年「報道文を比較して読もう」

6月の教科書教材。資料として使われているのは、東京オリンピック・パラリンピックのボランティア募集について報じた、同日の2紙の新聞記事。写真の被写体は同一人物であるのに全く違う表情のものを使っていることで、印象が随分異なることに生徒は驚嘆した。一つの事実についても、情報の切り取り方や伝え方によって、受け手の捉え方が大きく違ってくことを実感できる良い教材である。

### ⑤全学年「新聞配達に関するエッセーコンテスト」「いっしょに読もう！新聞コンクール」

全校挙げての取り組みも8年目となり、生徒達には「この時期、挑戦するもの」として定着している。使いたい新聞記事は「立ち読み場」で切り取ったり、ストックしたりして使わせた。毎年させていると、昨年よりも良いものを、と欲の出る生徒が多く、保護者からも「楽しかったです」「こんなことを考えてるんだ、と驚きました」などと嬉しい反響もある。

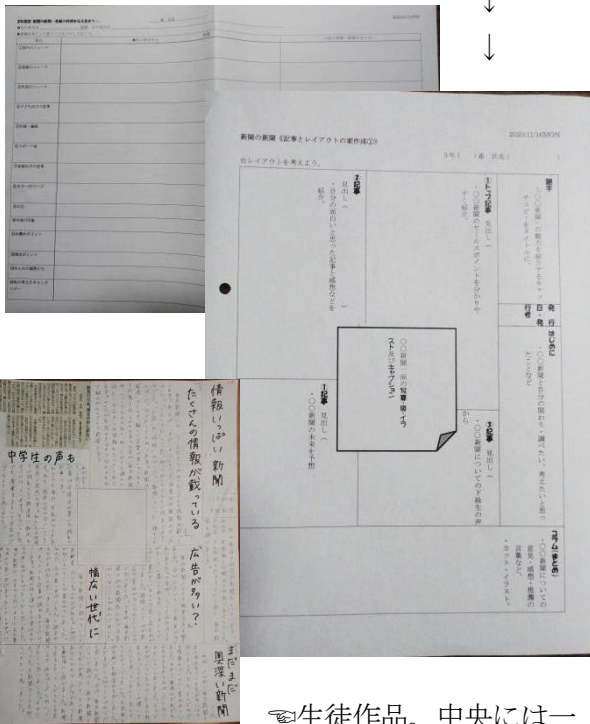
### ⑥3年「新聞の新聞」

教科書教材「多角的に分析して書こう」の対象をアレンジして、新聞6紙を比べ読みしながら、それぞれの新聞の良さを考え、その中から1紙を選び、その新聞の特性や魅力を新聞の形



に整え、交流させることで、各紙の工夫や特徴を考えさせた。

👉 ワークシート



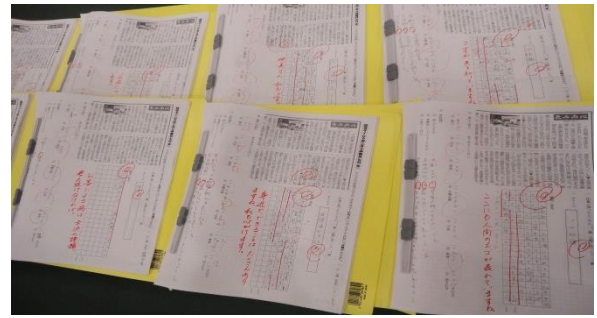
👉 生徒作品。中央には一面の縮小写真を掲載。

### ⑦感謝祭での展示

10月30日(土)、感謝祭(多くの学校では文化祭にあたる催しで、半日開催)が行われた。1年生は新聞工作で、テーマ「色彩」の看板を作って、会場玄関に設置した。展示コーナーでは全生徒の「読得ファイル」を並べた。生徒同士での刺激はもちろん、来場者も興味深く熟読していた。



👉 学級目標も同じ方法で作成していたのでスピーディーに完成。👉 並べると生徒から歓声。



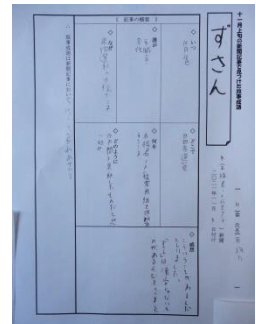
👉 毎年、「読得ファイル」をこの場で丁寧に読む人が一定数いる。「素晴らしい取り組み」「私もしたくなりました」「書き写しノートを買っていますよ」等と会話も弾む。

### ⑧1年「11月上旬の新聞記事で見つけた故事成語」

11月の教科書教材「今に生きる言葉」の発展学習としての位置付け。故事成語が新聞紙面でも活用されていて、特に見出しで多く使われ、内容を短く、的確に伝えることのできることに生徒自身が気づき、その有用性を実感していた。

ワークシート 👉

記事の概要を5W1Hでまとめ、感想をメモさせた上で発表。その後、「故事成語は新聞記事において」の書き出しで、考えたことをまとめ、振り返りをさせた。





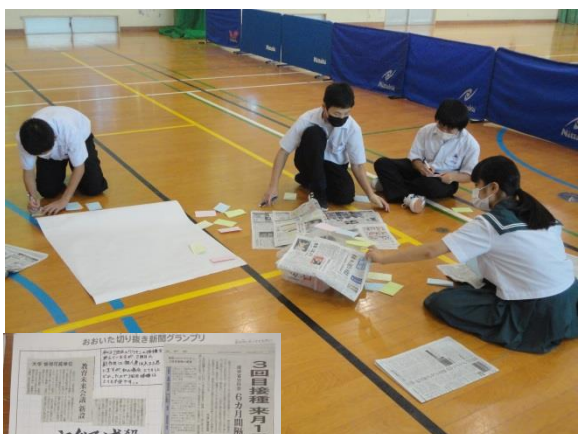
👉「杜撰」の多さに一同驚嘆。「ずさん」という平仮名表記の多さについての是非も議論した。

### ⑨全学年「切り抜き新聞グランプリ」

かなり自由な発想で、新聞記事を探したり考えたりする中で、視野が広がり、思考・判断の力も自然とついてくる学習活動であり、取り組みを楽しみにしている生徒も多い。本年度は、取り組み時期を学年ごとに少しずつずらし、仕上げた作品のテーマのバリエーションが多くなるようにした。



👉新聞の一覧性という大きな魅力にも気づく。



👉自分で読み、考えたことを自分の言葉で伝える練習にもなる。

### ◇その他

- ・道徳や平和学習等の授業でも多くの教師が適宜、新聞記事を活用している。
- ・環境学習や平和学習の折には特に、朝日新聞社発行の「知る水俣病」「知る沖縄戦」「知る原爆」は、記事のどこを取り上げても、生徒の興味を引き、飽きさせることなく、思考を広げ、深めさせてくれる有用な教材であり、教師にも好評である。



### (3) 実践の振り返り

学期末に実施する生徒アンケートで、読解力や表現力の向上について肯定的な回答をする生徒が85%を常時超えている。時には95%のこともある。NIEにより、「知らないことを知ることができた」「漢字や作文の力がついた」という感動や満足感を記述する生徒も多い。実際、読むことや書くことが不得手だった生徒も、読み書きに慣れ、次第に自信も付けている。特にテストでの無解答率が大幅に減ったことは成果の一つである。

また、仕上げた作品を各種コンクールに出品し、「一緒に読もう！新聞コンクール」「大分県学校新聞コンクール」「おおいた切り抜き新聞グランプリ」で学校奨励賞や個人賞を頂けたことは、生徒や教職員の大きな励みにもなっているし、地域の方々にも喜ばれている。

今後も、より多くの生徒が満足のできるような取り組みを、全教職員とともに進めたい。

生徒集会や激励会などの括りはいつも生徒会役員による「緑中は一つ」コールである。NIEでも「緑中は一つ」で邁進しようと強く思っている。



# 自ら学び、みんなで学び、社会とつながるNIE

～SDGsの学習を通して～

大分市立戸次中学校 教諭 小野 友祐

## 1. はじめに

本校の学校教育目標は「ふるさとを愛し、自ら学び、心豊かで実践力のあるたくましい生徒の育成」である。ここでの「実践力」とは、「社会における実践力」である。本校では、生徒と社会をつなぐものとして「新聞」が有用であると考え、NIE実践指定校の3年目を迎えた。

本年度は、人権・同和教育や小中一貫教育の研究指定校と重なったことや、臨時休業による教育課程の遅れなどにより、予定していた活動が実施できないこともあった。しかし、できる範囲で新聞活用を意識して実践を重ねることができた。特に、新学習指導要領において、どの教科書でも取り上げられているSDGsに関する取り組みも行うことができた。

## 2. 学校としての取り組み

### (1) NIE研修及び人権・同和教育研修

第96回実践研究会で発表をした2020年度の本校の取り組みをベースに、新学習指導要領とNIEの関連や、SDGsが掲げる17の目標について研修を行った。また、人権・同和教育研修として、ハンセン病元患者への差別問題の学習を、新聞記事を用いて実施した。

#### 記事① ハンセン病元患者の白根さん

故郷・臼杵にもどれぬまま死去

「生きた証を語り継ぐ」

「差別の事実風化させぬ」

#### 記事② 「負の歴史を未来へ」

「長島愛生園 ダークツーリズム」

2つの記事には、インターネットには掲載されないような、差別に苦しんできた人々の生き方や家族の思い、そして、記者の方の願いが細かく記されている。こうした新聞の魅力を忘れずに、日ごろから記事の収集に努めていく必要がある。また、このような人権や差別に関する記事は、生徒たちにも積極的に紹介することが大切であると感じた。来年の取り組みにつなげていきたい。

### (2) 一緒に読もう新聞コンクール(全学年)

1・2年生はSDGsに関する記事を、3年生は、昨年度の3月に各新聞社で特集されていた「東日本大震災復興10年」の記事にしぼってコンクールに応募した。

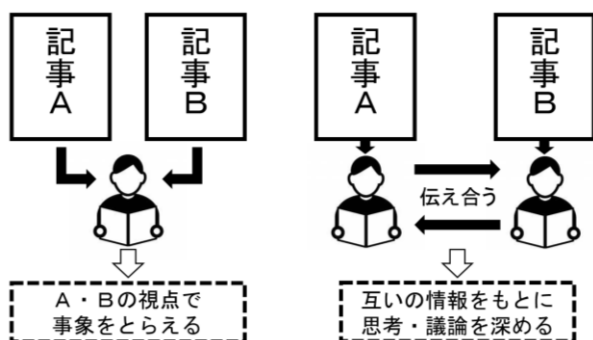
1・2年生は、エネルギーに関することやジェンダー平等などの記事を見つけ、友だちに意見をもらい、自分の考えをまとめた。2年生では、帰りの会の「今日のNIE」という1分間スピーチコーナーで、記事の概要や感想を発表し、全体への還流も行った。

SDGsのように幅広いテーマで記事を探すことには、様々な社会の出来事に触れることができるというメリットがある。また、3年生のようにひとつのテーマにしぼって全員で考えることには、より深い部分まで考えることができるというメリットもある。いずれにしろ、関連記事をストックしておくことの重要性も感じた。

(学校奨励賞受賞)

### (3) 平和授業の取り組み

SDGs 16番「平和と公正をすべての人に」という視点から、平和学習での新聞利用を進めてきた。50分の授業で中学生がこのような政治的・国際的な記事を読み取り、考えることには限界がある。しかし、1つの記事だけでは、多面的・多角的に社会事象をとらえることはできない。そこで、下の図の右側の方法を用いて、学習をおこなった。



左図のように、個人が複数の記事を読むのではなく、自分のペアとなる人が、自分とは異なる記事を読んでおり、お互いの記事の内容を伝え合うというものである。この方法により、より主体的・対話的な学びへと近づくことができたと感じている。

### 5月「ミャンマーで起きたクーデター」

- ・記事① 子どもの犠牲相次ぐ
- ・記事② ミャンマーメディア危機
- ・記事③ 安保理経済制裁の必要性
- ・記事④ ミャンマーインフラ分野支援停止

#### (生徒の感想)

このような事が起きていることを知らなかった。軍が国民の自由を奪ったり、人を殺したりしていることは最低だと思った。なんとか話し合いでこの問題を解決して、戦争にならないようにしてほしい。そのためにどうしたらよいか答えは分からないけど…。

### 8月「黒い雨訴訟2審」

過去

- ・記事① 被爆者の認定条件
- ・記事② 黒い雨訴訟の経緯
- ・記事③ 2020年の一審判決
- ・記事④ 21年7月の二審判決
- ・記事⑤ 政府が上告を断念

時系列に編集

現在

### 12月「辺野古基地移設を巡る問題」

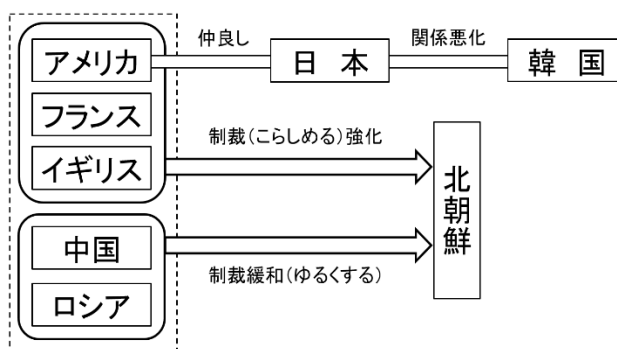
- ・記事① 辺野古設計変更不承認
- ・記事② 米オスプレイ水筒落下
- ・記事③ 思いやり予算2000億円台後半

#### (生徒の感想)

今の場所だと住民が危ないけれど、基地を軟弱地盤に移設すれば、それも危ないと思う。予算については、米軍に使わずにもっと住民のためにお金をかけてほしいと思った。

### 2月「北朝鮮ミサイル発射問題」

- ・記事① 北朝鮮への制裁強化と緩和の対立
- ・記事② 日米間の連携立て直し



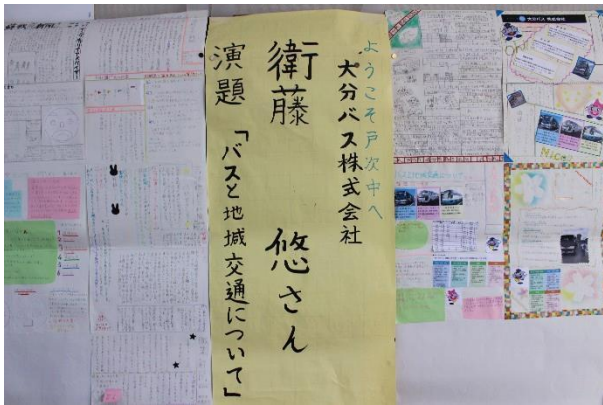
2つの記事に出てくる国名を合わせて、上の図の相関図を班で完成させ、よりグローバルな視点でミサイル問題を考えさせることができた。

#### (生徒の感想)

全部、北朝鮮が悪いと思っていただけ、この問題には色んな国が絡んでいることを初めて知った。世界中の国が仲良くなることはとても難しいと思った。

#### (4) 職業講話新聞の作成 (2年)

ヤングキャリアアドバイザーの方の話を聴き、質問したことや分かったことを新聞にまとめた。付箋を用いたり、パンフレットなどを切り貼りしたりして、オリジナルの新聞を完成させた。

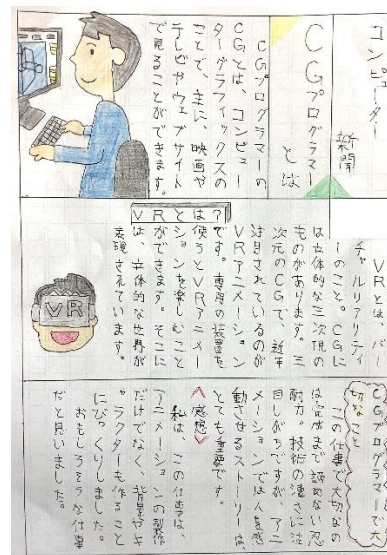


\* 2年生は修学旅行新聞に取り組む予定でしたが、修学旅行の日程変更などにより、実施ができなかった。

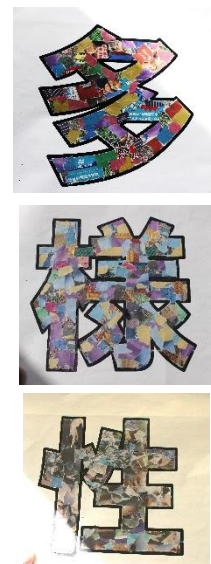
#### (5) 職業調べ新聞の作成 (1年)

公益財団法人理想教育財団から、いくつかのサンプルを郵送してもらい、ハガキ新聞の作成に取り組んだ。

ハガキ新聞は、サイズが小さいため、文章を書くことに抵抗がある生徒も取り組みやすいという利点がある。また、専用の用紙には、薄く罫線が引かれているので、バランスよく文字を書くことしやすいという利点もある。イラストを入れたり、見出しにこだわったりと、それぞれが工夫を凝らした職業新聞を作ることができた。



「はがき職業新聞」



「ちぎり文字」

#### (6) 生徒会活動

委員会ごとに、SDGsの番号を割り振り、新聞の切り貼りをを行い掲示をした。



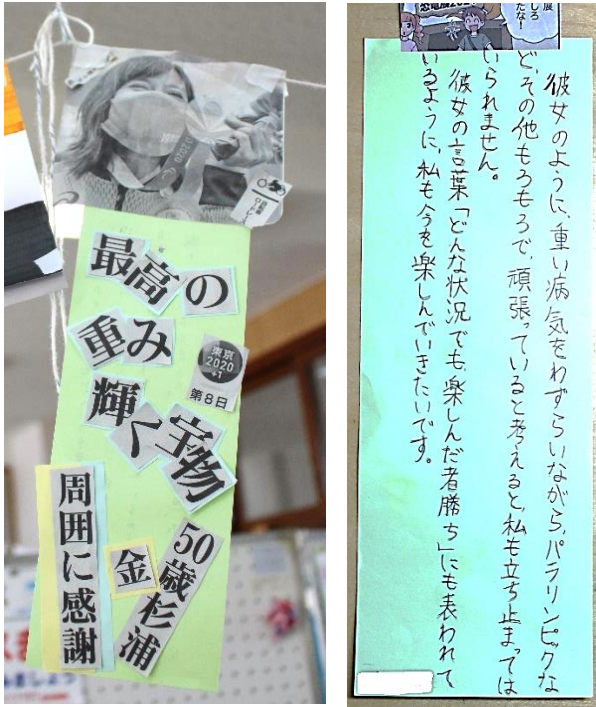
#### (7) パラリンピック記事

東京パラリンピックの記事を題材に、多様性や共生社会について考える掲示物を作った。

- 手順① 記事をひとつ選ぶ
- 手順② メインの写真を切り取る
- 手順③ 見出しの大きな文字を切り取る
- 手順④ 文字をレイアウトして貼り付ける
- 手順⑤ 色紙やペンで飾りをする
- 手順⑥ 裏面に、記事の感想を記入する



2年生は、昨年度、切り抜き新聞コンクールを体験していたので、文字の切り貼りなど工夫を凝らした作品を作ることができた。また、この活動の後に、実際に修学旅行で「太陽の家」を訪れ、車いすやパラスポーツの体験活動を行うことができた。とても学習の深まりを感じた。



### (8) 高校調べ／帰りの会スピーチ

どの中学校でも、総合的な学習の時間に高校調べを行っている。その一般的な方法は、ホームページや高校のパンフレットから得た情報を切り貼りして、新聞を作るというものである。本校では、その取り組みにプラスして、保管しておいた本年度の大分合同新聞を全てチェックして、県内の高校の記事を抜き出す作業を行った。その記事を高校調べ新聞の材料にしたり、帰りの会のスピーチで紹介したりした。



写真：各自で集めた高校記事（背面掲示板）



写真：高校を紹介する生徒（左）とNIE係（右）

### (9) その他

朝学習…NIEワークシート(大分合同・読売)

生徒会…給食放送中の「発見こんな記事！」

「SDGs」のコーナー

環境…古新聞を用いたゴミ箱の利用

## 3. 成果と課題

文部科学省が公立の小中高の学校図書館に複数新聞を置くようにという方針を打ち出すなど、NIEの取り組みに注目と期待が寄せられている。残念ながら、3年目をもって、本校での実践指定校としての取り組みは終わりを迎えることとなった。しかし、この文科省の方針が実施されれば、実質どの公立学校でもNIEの取り組みが重要視されることは明らかである。

新学習指導要領には、新聞を教材として活用することが位置づけられている。また、選挙権の引き下げにより、生徒が社会の課題を多面的に判断する必要性について述べられている。

来年度も本校で行ってきた取り組みを継続・発展させていくことはもちろん、他の学校に異動した場合も、新聞を活用した授業実践を広めていき、さまざまな視点からNIEの有効性を検証していきたいと考えている。



# 「社会の出来事を知り、お互いに学び合おう」

～「発信」→「交流」→「深める」～

日田市立戸山中学校 教諭 三浦 僚太、高浪 祐一

## 1. はじめに

本校は、「社会の出来事を知り、お互いに学び合おう」を目標に、一昨年度からNIEの取り組みを始めた。

1年目は、「新聞を身近なものにしよう」をテーマに掲げ、「新聞記者による出前授業」「切り抜き新聞シート」「朝の新聞タイム」「3分間スピーチ」「修学旅行新聞」「新聞でバッグ製作」「新聞切り抜きグランプリへの応募」「NIEアドバイザー（永松先生）による職員研修」等に取り組んだ。これらの取り組みにより、それまでほとんど新聞を手にする事のなかった生徒が、徐々に新聞に興味を示しはじめてきた。

2年目の昨年度は、活動を継続しながら、「深める」ことをめざして取り組みを進めた。記事についての自分の考えを先輩や友達に伝え、そこでの交流や意見交換をもとに自分の考えを見つめなおさせたいと考え、「発信→交流→深める」をテーマに掲げた。

今年度も、この「発信→交流→深める」をテーマに掲げ、取り組みを継続している。

## 2. 実践内容

### ①朝の新聞タイム

朝15分間を「朝の新聞タイム（1年；火曜、2年；水曜、3年；木曜）」と設定し、3社の新聞を自由に選んで読む。



### （生徒感想）

○小学校では、新聞を読む機会がなかったけれど、中学校に入って、新聞を1週間に1回読むようになって、「こんなことがあったのか」など知らなかったニュースをいつもより知ることができた。

○最初は、正直、「こんなことして意味あるのかな」と思っていたけど、何回か読んでいるうちに、「この記事おもしろいな」とか「なるほどな」とか思うような記事があって、少し楽しくなった。

○自分の家では新聞をとっていないので新鮮だった。これからも新聞をたくさん読んでいこうと思う。

### ②3分間スピーチ

朝または帰りの学活で、自分が選んだ新聞記事を紹介し、感想や意見を発表する時間を設定した。

新聞記事の内容を要約し、それに対する自分の考えを端的にまとめて伝える訓練にもなった。



(生徒感想)

- ひとつの記事に、しっかり自分の考えを持つことができた。自分で探せなかった記事をみんなが発表してくれて知ることができた。
- 読むだけじゃなくてしっかり考えることで、自分はどのような考えなのかを知ることができた。
- 自分だけでなく、みんながおすすめする記事を知ることができて、とても楽しかった。
- スピーチを書くときは、より真剣にたくさんの記事を読むのでいいと思う。友達のを聞くと、自分が知らない記事も知ることができるので良かった。
- 自分の意見を言うのが苦手だけれども、発表の順番の時は大きな声で言えた。

③N I E 教室や掲示の充実

N I E を全校生徒に意識づけるため、「N I E 教室」を設置し、校舎内の掲示にも気を配った。

N I E 教室には新聞を自由に閲覧できるように常時準備し、廊下の掲示場所には新聞コンクールや切り抜き新聞グランプリの応募作品などを掲示。また、話題となっているタイムリーな記事の掲示も試みた。



④新聞切り抜きシートの交流

自分の興味関心のある記事を選び、感想や意見を書き、友達と交換し、再度自分の意見を書く交流を行った。交流した後、作品を廊下に掲示した。

⑤「いっしょに読もう！新聞コンクール」に全校生徒が取り組み、応募

1学期に取り組んだ「新聞切り抜きシートの交流」の経験を活かし、自分の考えをさらに深めるために取り組んだ。



(生徒感想)

- たくさんある記事の中で、「どれにしようかな」と迷ったけど、これなら書けそうという記事が見つかってよかった。
- 新聞を見つけ、自分の感想を書いたけど、ほかの友達に聞くと、「こんな感想もあるんだ」と知ることができた。

⑥「第7回おおいた切り抜き新聞グランプリ」への応募



⑦新聞記事について論じあうディベートなど

ピューリッツァー賞を受賞した一枚の写真とその写真を撮った写真家についての記事（1994年5月10日付朝日新聞）を題材に、ディベートを行った。

「写真家はその瞬間、写真を撮ることと少女を助けること、どちらを優先すべきだったのか？」



(生徒感想)

- 切り抜きたい記事を選ぶとき、いろんな記事を読むことができてよかった。
- 楽しかった。記事を探して、自分で貼る・書くことで、よりその内容を知ることができた。
- 一句詠んでみたりして楽しく書けた。カラフルにできた。
- 選んだ記事は、他の新聞では全然ちがうことが書かれていたりして、たくさんを知ることができた。
- 一年でのテーマの変化をわかりやすくまとめられた。文を簡潔に書くコツもつかめた。
- 日本で流行したものや2021年に起きた事件について、自分でまとめたりすることが難しかった。
- かなり大変だったけど、その大変が逆に楽しかった。
- 記事を集めたり意見をまとめたりすることが難しかったけれど友達と協力して作れたのでよかった。

3. 取り組みの成果と課題

(1) 成果

本校の生徒たちは、NIEの様々な活動を通して、新聞を読むことで社会のできごとに興味を持ち、自分自身の考えを持つと同時に、人による受け取り方の違いや新聞の読み方を学び、お互いに学び合い高めあう姿勢を身につけていった。NIEの活動を通して自分の成長を実感できた生徒も多い。

\* 「自分が成長したと思える点・ついた力」

<生徒のアンケートより>

- ・家に届く新聞を、今まではあまり読んではいなかったけれど、最近は読む頻度が多くなった。
- ・NIEの活動で、いろいろな記事にであうことができて、よかった。
- ・去年より、新聞を読んで思ったことなどを多く書けるようになった。NIEを通して、世の中の状態がよりわかるようになった。

- ・スピーチに取り組むことで、みんなの前で発表することに慣れてきた。
- ・関連記事などを探るのがスムーズにできたり、意味が分かって読める言葉や漢字がふえた。私はスポーツにあまり関心がなかったけれど、スポーツに少し興味がもてた。
- ・みんなが紹介する新聞を読みあったりして、仲が深まったと思う。これからも新聞を読み続けていきたい。
- ・周りの人の考えを知ることができてよかった。普段しないことができて新鮮だった。
- ・自分が住んでいる県や地域のことについて知ることができたので、良かった。
- ・友達と、面白い記事を見つけたりして笑ったこともあった。朝、みんな静かに新聞を読んでいる時間は、最初は「なんでするんだろう」と嫌だったけど、読んでいくにつれて面白くなってきた。
- ・ネット社会になっている今、意欲的に新聞を手に取り読むことができた。また、自分が思った意見も考えることができるようになった。
- ・国語の成績が少し上がった。意見もすんなり出せるようになった。
- ・国語の読解力が前よりついたと思う。新聞を読むことで、漢字の読みなども学習できた。
- ・新聞を読むことで文章を読む力がついて、本を読むのがさらに楽しくなった。

## (2) 課題

大きな成果を生んだN I Eの取り組みであったが、取り組んでいく中でいくつか課題もあった。

### ①新聞の絶対量の確保

「切り抜き新聞グランプリ」など、全校で一斉に取り組む活動は、N I Eの活動の中でも生徒の人気の高い。

生徒が自分で新聞記事を探し、複数の新聞の記事を見比べたり、時間の経緯に沿って一つのテーマに迫ろうとしたりする多様な活動ができる活動であるが、そのためには、できるだけ多くの新聞があることが理想である。

新聞をとっていない家庭もあるので、学校に、ある程度の量の新聞がストックされていないと、生徒一人一人の活動が制限され、多様な学習も保障できない。

そういう意味からも、新聞協会のご協力は大変ありがたかったが、今後のことを考えると、どう新聞を確保するかは課題である。

### ②教科の広がり

N I Eの活動を全校で取り組むことで、全教職員が関わることとなり、生徒の作品にも各教科のユニークな視点が加わった。

今後、それが発展して、各教科で独創的な活動が生まれることを期待している。



# 新聞を通して考える 社会と自分

## ～新聞を通して様々な文章に触れる機会の確保～

大分県立大分舞鶴高等学校 教諭 道中 聡

### 1. はじめに

今年も昨年に引き続き新型コロナウイルスのニュースが連日のように報道され、オリンピックに関するニュースも様々にもたらされた。その中にはゴシップに近いものや、極端な意見のものも多くみられたように思う。生徒たちにとって身近なメディアはネットニュースであり、YouTube であり、SNS であろう。まさに今こそメディアリテラシーの涵養が重要な時期であり、新聞というメディアを通してそれを行うことが必要ではないかと思われる。また、昨年度初めて実施された共通テストにおいては、試行テストで示されたような問題とは少し違っていたが、複数の科目で多様な文章や複数の資料を読み解く能力が要求されていた。

新聞は活字を中心としたメディアであり、生徒が新聞に目を通し、主体的に考えることができるようになる活動を構築することを目指して、実践した。

#### 【実践の目標】

- 1 新聞を通し、生徒の社会への関心、読解力、思考力・判断力、表現力を育成する。
- 2 生徒が自発的に新聞を調べ、進路目標の設定および達成に資するものとする。
- 3 学年、教科、図書館等の連携の取れた組織体制を構築する。

### 2. 実践事例

#### (1) N I E コーナーの設置

中央階段 1 階と 2 階の踊り場壁面に設置している。生徒の多くはここを通過して教室に向かうため、足を止めて見ている生徒も多い。



階段踊り場のN I Eコーナー

#### ①一面読み比べ

平日の朝、全国紙 4 紙 + 地方紙 2 紙の一面を掲示している。前任者より厚意で引き継いだ梶原教諭が、生徒の登校時間に合うよう朝早くから準備してくれている。

#### ②「舞鶴魂の体現」

新聞紙上に掲載された本校生の記事を切り抜いて掲示している。今年度より、継続性を重視して新聞部の生徒が担当することになった。

#### ③コラムの比べ読みプリント

5 紙のコラム欄を切り貼りしたものを 1 枚のプリントにして印刷してこのコーナーに置いている。裏面には時事問題の解説記事を掲載することもある。こちらも梶原教諭の厚意で成立している。小論文対策として 3 年生が読むほか、朝礼までの時間のルーティーンとして読む生徒や、教員にも好評である。



コラム読み比べ（読売・毎日・朝日・西日本・大分合同）

## (2) 各種コンクールへの応募

### ①いっしょに読もう！新聞コンクール

昨年は1年生のみの取り組みであったが、今年は学年部の協力を得て、1・2年生全員（約640人）に対して夏休みの課題として参加させることができた。新聞を購読していない家庭にも配慮して、各学年部の廊下に自由に使って良い新聞を設置した。利用している生徒も少なからずいたようである。まずは新聞に触れ、開かせるという目的の一つは達せられたのではないかと思う。

残念ながら今年度は個人で賞を受賞した生徒はいなかったが、学校奨励賞をいただくことができた。

### ②おおい切り抜き新聞グランプリ

こちらも1・2年生全員に対し、冬季休業中課題として取り組ませた。約600編を超える数の作品を応募した。高校生の部で準グランプリを受賞することができた。

NIE実践指定校が受けることのできる年間購読を利用し、2か月分ほどの新聞を教室前廊下に設置し、自由に切り抜いてよいものとした。

生徒によって取り組みの差はあるものの、概ね積極的に取り組んでいた。中にはこちらが驚

くようなクオリティのものもあり、思考の跡がうかがえた。

### (3) 現代文平日課題「新聞記事を読む」

昨年3学期より隔週水曜日に提出する課題として、社説に書かれていることを簡単にまとめ、自分の考えを書くというプリントを配布している。生徒の負担を考え、5～10分程度で取り組めるものとしている。小論文対策のほか、社説という文体に慣れる、自分の考えをコンパクトにまとめることなどを目的としている。提出されたものは現代文担当者が目を通し、返却している。

2014年 新聞記事を読む No. 11

(1) 今回の電力供給がひっ迫する要因はどのようなことか。

.....

.....

.....

(2) 電力不足への対策を供給側と需給側からまとめよ。

.....

.....

.....

(3) 電力供給の安定について、どのようにすればよいと考えるか。

.....

.....

.....

( )年( )組( )番  
氏名( ) ( )

7/14 (水) 朝 現代文係に提出  
取り組み目標時間：10分

A4サイズのプリント。大分合同の社説がサイズの的に丁度いい

### (4) 授業実践事例

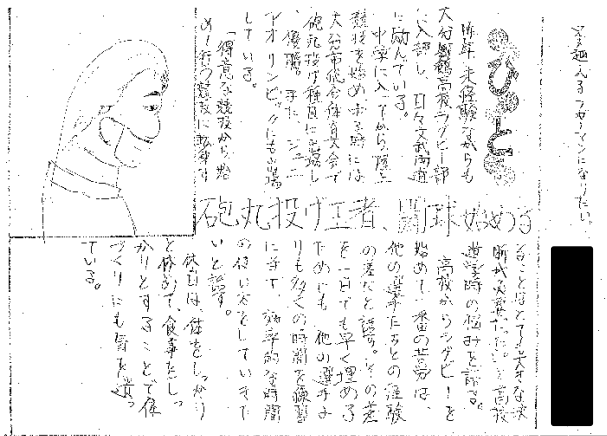
①「ひと」欄を参考にしてクラスメイトを紹介する

大分合同新聞の「ひと」欄のフォーマットを使って、クラスメイトを紹介するという活動を2年文Iクラスの現代文で実施した。

最初に合同新聞の「ひと」欄を数人分読ませ、形式を理解させた。その後自分たちで書かせるのだが、特に、上段と下段の間に位置する見出しについて工夫をするよう指示をした。入念なインタビューを経て、生徒たちは一生懸命に取り組んでいた。ほとんどのものは一時間で書き終わり、次の時間に口頭で発表させた。

見出しをつけるという経験があまりなかったため、多くの者が苦勞していたが、限られた字数の中でキャッチーな言葉を考える楽しさを見出していたように思う。発表をすることでクラスメイトの新たな一面に気づいたものもいたようだ。

単にクラスメイトを紹介させるだけと散漫になりがちだが、新聞紙面のフォーマットを利用することでそれなりの文章に見え、生徒も書きやすかったものと思われる。



インタビューを生かした紹介となっている

## ② 「K」の自殺を新聞記事風にまとめる

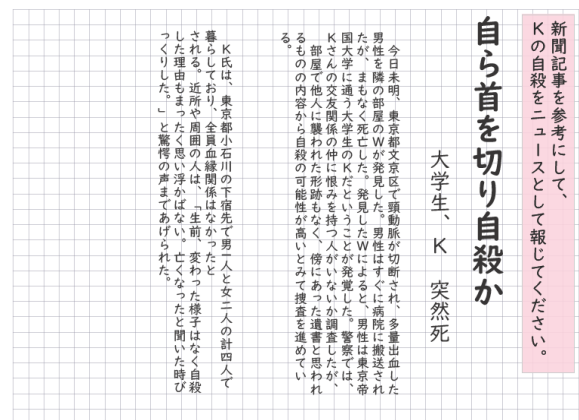
①と同じく2年文Iクラスの現代文において、夏目漱石の「こころ」における「K」の自殺を新聞記事風にまとめるという活動を行った。

本文の読解を終えた後、「K」の自殺を新聞記事風にまとめさせることで、「K」の自殺の理由

を考えさせた。まず事件を扱った新聞記事をいくつか読ませ、日時・場所・関係者・事件の概要などが最初に書かれており、その後状況や理由などが書かれている文体を確認させた。次に本文を再度読み直させ、「K」の自殺に関する客観的事実と発言や状況から推測されることに分けさせ、新聞記事を参考にしながら記載させた。こちらからは記事本文を書くように指示したが、自発的に見出しをつけるものもいた。

ちなみにこの活動の発表については、ZOOMを利用して離れた場所からニュース風に原稿を読ませ、それを教室のスクリーンで見るという形式を取った。話した者も聞いた者も新聞記事風の書き方がわかりやすくできていることに改めて気がついたようである。

NIEの活動からは少し離れるかもしれないが、今後オンライン配信を意識した話し方・聞き方について工夫させる授業は多く構築していくべきと考えた。

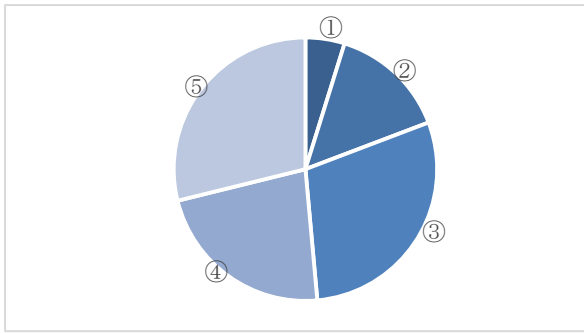


## 3. 実践の振り返りと今後の課題

今年度NIE活動を主に行った2年生へアンケートを実施した。(1月28日実施)

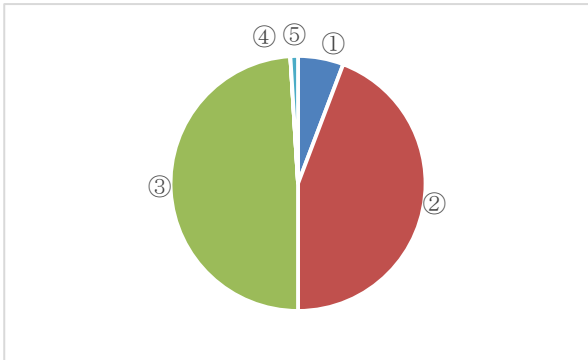
1. あなたは日頃、新聞（Web版を含む。ネット記事は含まない）をどの程度読んでいますか。最も近いものを一つ選んでください。





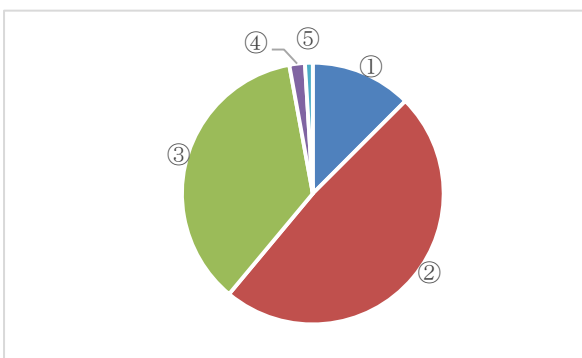
①毎日読む	4.8%
②1週間に2～3回	14.4%
③1か月に2～3回	29.3%
④1年に2～3回	22.6%
⑤全く読まない	28.8%

2. あなたはNIEの活動を通して、新聞に対する興味関心や親しみが増しましたか。



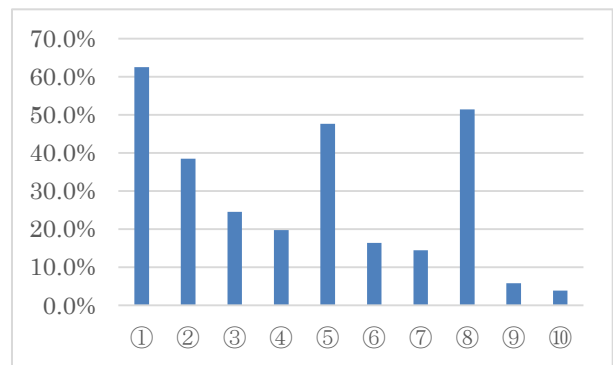
①大変増した	5.8%
②やや増した	44.2%
③変わらない	49.0%
④やや減った	0.0%
⑤大変減った	1.0%

3. あなたはNIEの活動を通して、読む力や書く力、考える力が増したと思いますか。



①とてもそう思う	12.5%
②ややそう思う	48.6%
③変わらない	36.1%
④あまり思わない	1.9%
⑤全く思わない	1.0%

4. 高校に入学してから新聞を活用した授業や取り組みを通して多少なりともできるようになったと思えることは何ですか（複数回答）。



①時事問題を知る	62.5%
②語彙力が身につく	38.5%
③文章を読むのが速くなる	24.5%
④文章をわかりやすく書く	19.7%
⑤情報を選択する	47.6%
⑥より深く思考する	16.3%
⑦自他の違いがわかる	14.4%
⑧視野が広がる	51.4%
⑨他者の話を聞き取る	5.8%
⑩なし	3.8%

上記のように半数程度の者が年間数回以下しか新聞を読まない現状の中で、新聞を用いた活動はある程度の効果を上げていることがわかった。

今後は、NIEの活動を組織的かつ継続的に行っていくために、分掌の中に位置づけられるような働きかけを行っていきたいと考えている。また、授業における活用事例を増やすとともに共有する機会の確保を模索していきたい。

# 新聞で学びを深める

～食物科、看護科における、社会と関わろうとする専門教育を目指して～

別府溝部学園高等学校 教諭 堀井 忠大

## 1 はじめに

本校はN I E実践指定校として本年度で5年目となる。これまで「総合的な探求の時間」で行われていたが、今年度はN I Eを専門科目教育で行うことを目指し、試行錯誤してきた。

スタート当初、看護専攻科、食物科(3年生)に対し、専門科目での学びを深めるために本年度は新聞という媒体を使用して、普段学んでいる専門教科が、社会の中でどのように関連しているのかということに焦点を当てて、N I Eの実践を行ってきた。

## 2 学校としての取り組み

学校内での取り組みとしては

- ① 大分合同新聞、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、西日本新聞、日本経済新聞を一定期間購読し、「N I Eコーナー」を設け、生徒誰でもが閲覧できる環境を整えた。
- ② 探求型の授業において、与えられたテーマや、自分が興味を持ったテーマに関する新聞記事を使用し、様々な考えがあることを知る。
  - ・看護専攻科においては、専門科目ではなく一般科目において医療課題に関する記事を使用し、「自分事」として捉え、考察した上で他者と意見を交流する。
  - ・食物科(3年生)においては、食とそれを取り巻く環境に関する記事を使用し、S D G s と関連させて、後世に食文化を伝えることの重要性などを考察していく。
  - ・食物科(1年生)においては、新聞に興味を持ってもらうために、気になった記事や広告などを使用し、自分達が学んでい

る「食」とどう結びつくのか考え、まとめる。

新聞記事を基に様々な考え方や社会事象があることを知り、自己の見識を広げ、また、自分の意見を持つように仕向けた。

年間の指導計画

- 1) 新聞から「学ぶ」
- 2) 新聞から「考える」
- 3) 新聞を基に「自分の意見を持つ」

## 3 実践事例

【看護専攻科1年 文学】

### 1 学期の取り組み

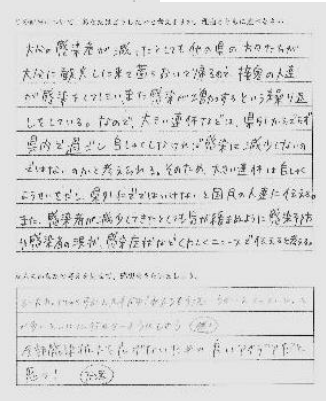
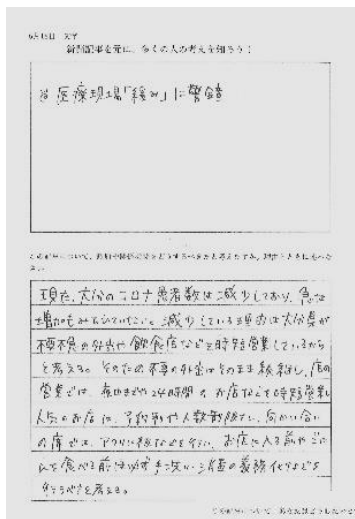
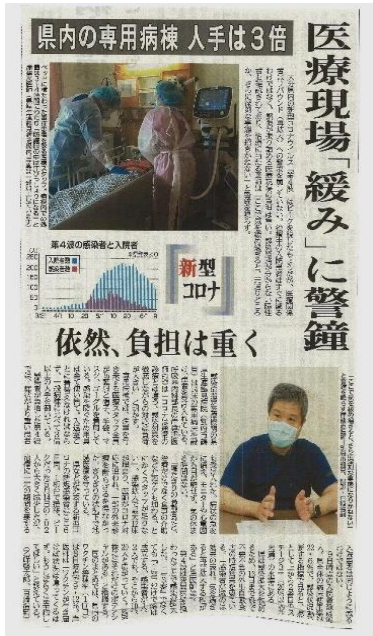
- (1) 新聞記事より、現代の医療課題を探し、その解決方法などを考え、まとめよう
- (2) まとめたものを他の人に評価してもらおう
- (3) 得た知識や考えたことを基に討論を行い、説得力を身につけよう
- (4) 討論の内容や、新聞記事を根拠として、説得力ある文章を書こう

文学の授業では、説得力のある小論文の執筆を最終目標としていたため、今学んでいる専門教科の内容と社会で顕在化している医療課題とがどう結びつくのか、自分達が身につけてきた知識はどのように社会の役に立っていくのかなどを考え、文章にまとめていくという目標のもと、新聞記事から医療課題を見つけ、新聞記事内のデータなどからその解決策や、解消策を考

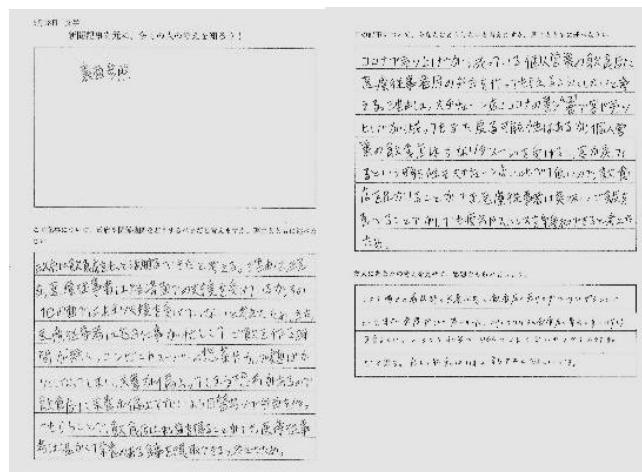
え、ディベートを行うことにより、それをより多くの同級生と共有していった。

その間に基本的な文章術を学習し、1学期末の考査において、50分で簡単な小論文試験を行った。(資料①、②参照)

資料①



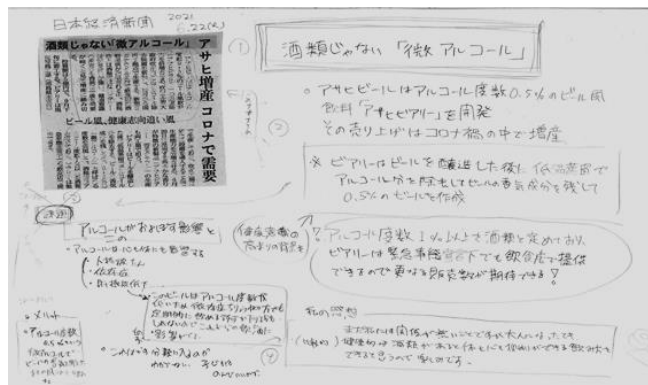
資料②



【食物科3年】

3年生では、食と農にまつわる記事を使用。記事の簡単な要約を行った上で、メリット・デメリットを考察するとともに今後の自分たちの生活との関わりや、地域社会との関わり、SDGsの17のゴールのうちどの項目と結びつき、どのように対処すべきかなどを考察している。(資料③、④参照)

資料③





資料④



2学期の取り組み

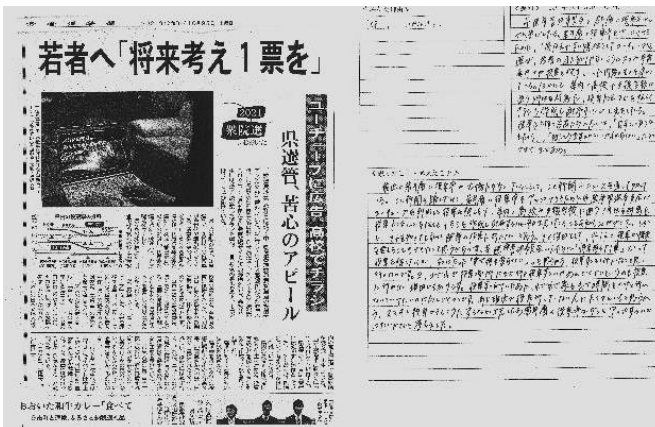
【看護専攻科1年 文学】

実習が始まり、授業をあまり開講できなかったため、1学期の取り組みを一度繰り返しただけで終わった。

【看護科3年】

本学は看護科3年でも1時間のみではあるが、NIEを実践することができた。20代以下の選挙における投票率が低いことに触れた記事から、選挙権に関して持論を述べるという形式で、もうすぐ選挙権を得る生徒たちに「選挙」の意義を考えさせるという、非常に身近に迫った問題を取り扱った。(資料⑤、⑥参照)

資料⑤



資料⑥



【食物科2、3年】

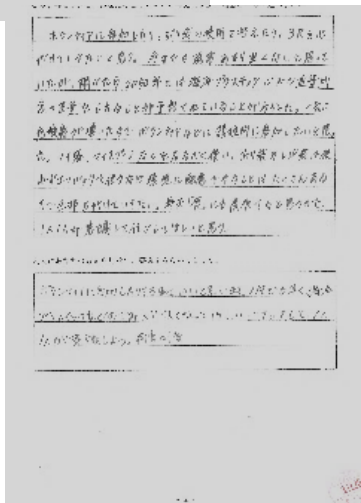
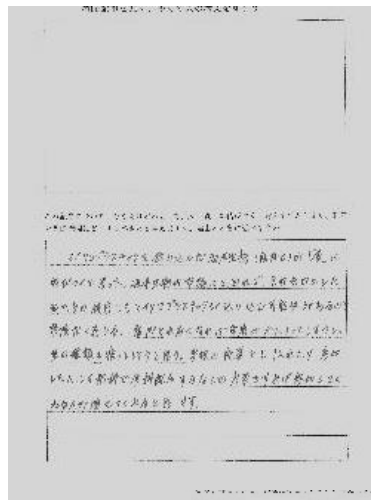
食と農、伝統食やジビエなど、県内での食のニュースや課題などをまとめ、自分なりの解決策を提示した上で、1学期にまとめたものと同様にA3用紙1枚にまとめ、プレゼンテーション形式で発表した。

【食物科1年】

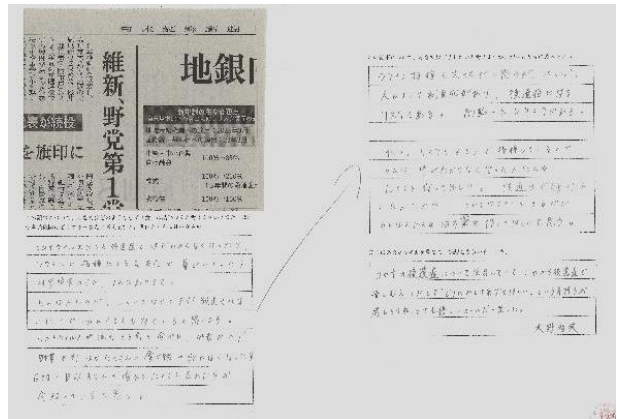
当初、3年生と同じ課題研究での実施を計画していたが、時間を確保することが難しく、うまく取り組めなかった。

そこで、「新聞に触れる」ことを目標とし、新聞記事から気になる記事や広告などを探すことから始めた。その後、その記事や広告が「食」とどのように結びついていくのか、関連性を探らせることから始め、その記事の内容に対し、課題点とその解決方法を考えるという取り組みを行った。看護科での取り組みと同じく、クラス内での相互評価を行い、考えを広げるようにした。(資料⑦、⑧参照)

資料⑦



資料⑧



#### 4 実践成果と課題

今年取り組んだコースでは、新聞を使った授業が新鮮だったのか、「新聞を使って授業をする」と呼びかけると、楽しそうに新聞に触れていた姿が印象的である。元々、目的があってその専門課程を選んでいる生徒たちであるため、目的意識が高いということも要因の一つであると思われる。

しかし、日常生活で触れる機会が少ない点に関しては昨年と変わらず、家庭で新聞を読む生徒は昨年と同様学校で新聞が読めるコーナーを設置しているが、あまり利用している様子が見られない点も昨年と余り変わらない。

入試などでも、情報検索能力や、その情報を元に自らの意見を論理立てて記述することが求められているため、新聞を利用した授業の有効性を改めて確認できた1年であった。



# 新聞を通して考える 社会と自分

## ～社会の一員としての多様な力を育む方法を探る～

大分県立佐伯豊南高等学校 教諭 小坂 吏香

### 1. はじめに

本校は、食農ビジネス科（S科）・工業技術科（T科）・福祉科（W科）・総合学科（A科）の4学科を設置した総合選択制の高校である。各学科の専門知識や技術を身につけるとともに、総合選択の授業では、興味・関心や進路に応じて他の学科の教科科目を学習することも可能である。例年、卒業後の進路は6割が進学（4年制大学、短期大学、専門学校等）、4割が就職で、高校生活を終わればすぐに社会へ出る生徒が少なくない。それにも関わらず、自分を取り巻く現代社会がどのようなものか、何が起きているのか等、知ることも考えることもなく、日々を過ごしている。

そこで、文章の読み書き能力・情報の活用能力・思考力等の育成、人間教育の学習材となりうる新聞の活用を通して、力を身につけ、世の中のことを知り、社会の一員として生きる自己の実現の一助となるよう、実践を行ないたい。

#### 【実践の目標】

- 1 新聞を通して、生徒の社会への関心、読解力、思考力、表現力を養成する。
- 2 生徒が新聞に親しむことで、進路目標の設定及び達成に役立たせ、社会の一員としてのあるべき姿を模索する契機とする。
- 3 学年、複数教科、図書館等の連携の取れた組織体制を構築する。



### 2. 実践計画

通年	(1) 学年課題「コラムを読むor 比べる」 (2) 選択科目「小論文研究」 (3) 他教科におけるN I E実践の集約
随時	・生徒の活動が載る新聞記事の掲示 ・「いっしょに読もう新聞コンクール」「切り抜き新聞グランプリ」等への応募 ・意見文の投書 など

### 3. 実践事例

#### (1) 2学年課題「コラムを読むor 比べる」

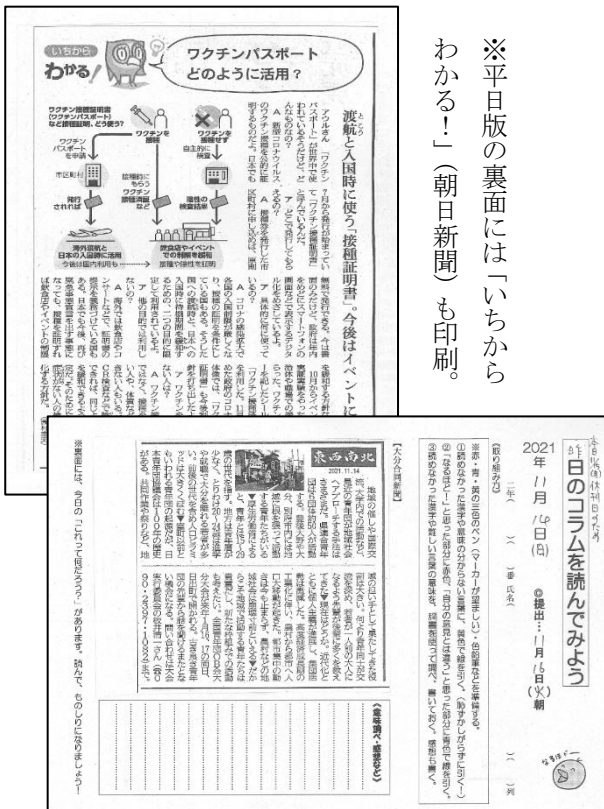
〈目標〉社会の諸問題を知るとともに、それらに対する自分の考えを持つ。

〈方法〉平日1紙（B5）・休前日5紙（B4）のコラムを読み、意味調べと感想を記入して提出→担任・副担任がコメントを記入し、返却。



※休前日版：朝日・毎日・読売・合同・日刊工業





※平日版の裏面には「いちからわかる！」(朝日新聞)も印刷。

〈現状〉平日は1紙分しか与えられないため、話題や新聞社が偏らないよう配慮しつつ選択している。考查前及び長期休業を除いて取り組んでおり、提出は9割を超える。担任を中心に、丁寧にコメントを記入してくれているため、生徒のモチベーションアップにつながっている。ただ、十分な思考や視野の広がりには至っておらず、「表面的」かつ「短絡的」な感想も散見される。その中には、コラム内容の読解ができていないと思われるものも含まれている。

〈課題〉取り組みの深度は、生徒個々の自主性に任せている状態であり、個人差が大きい。上述の通り、理解不足の生徒もいるため、クラス全員で読む時間や、語彙だけでなく取り上げられている事柄を調べるといった時間の確保ができるとよい。帯時間を設定しにくい現場では、工夫が必要である。

(2) 2年ST科国語総合「新聞広告制作」

※参考：阪根健二鳴門教育大学教授の実践  
 〈目標〉 広告作りを通して、事業所の良さ・仕事の意義を捉え直す。(インターンシップ事後学

習) また、言語感覚を磨く。一人一台貸与された iPad を活用する。

〈授業時間〉 全4時間

「説明①→制作②③→発表会・評価④」

〈生徒作品〉



〈生徒感想〉

みんなの目にとまるような広告で、パッと見て事業者のことが分かるようにすることが難しかったです。もう少し、写真や文字のフォントとか色を変えれば良かったと後悔しています。

工場見学をした際に、社員の方から「より良く早く、もっともっと」などの意志が伝わったため、そんなキャッチコピーにしようと考えました。

同じ事業所でもキャッチコピーやレイアウトで印象が変わることが分かりました。限られた紙面で何を伝えるか、言葉を選ぶ力はとても大切だと思いました。

人の目をひきつけるキャッチコピーは難しいので、これからさまざまな言葉を使い、知ってほしいと思います。

〈留意点〉今回、コロナ禍により実施日程が不確定であったため、計画的に行なうことができなかったが、事前学習から入る方が、よりインターンシップの学習効果は高くなり、かつ、広告のみならず新聞作成までも可能である。

完成した作品は、経験の共有、来年度に向けての意識づけ等の目的から、昇降口前の掲示板（全学年の生徒が通る場所）に掲示し、他学年・他学科の生徒の目にも触れるようにした。

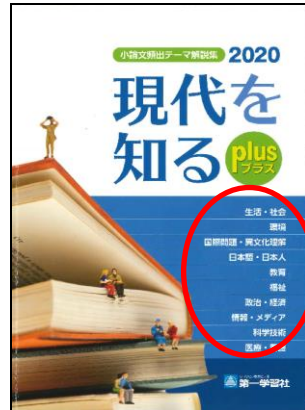


(3) 3 学年選択科目「小論文研究」

〈目標〉多岐にわたる情報を収集、整理し、根拠を持って考えを書くことを通して、意見を論理的に述べる能力を身につける。また、他の意見も尊重する能力を身につける。

〈対象生徒〉3 年 S・T・A 科の選択生 19 名  
〈単位数〉：単位（木曜日 5・6 限）

〈使用テキスト〉「小論文頻出テーマ解説集 現代を知る plus」第一学習社



- 生活・社会
- 環境
- 国際問題・異文化理解
- 日本語・日本人
- 教育
- 福祉
- 政治・経済
- 情報・メディア
- 科学技術
- 医療・看護

※各分野を偏りなく扱う

〈補助教材〉新聞社発行のワークシート 他

読者の目ざす「人口の自然減」 2020年6月14日(木) 東京

### 人口の自然減 40万人超

出生率 1.42に低下

◆昨年1年間の日本の死亡数から出生数を引いた人口の「自然減」が、統計史上初めて40万人を超えました。厚生労働省のまとめでわかりました。

【1】人口は何年か減少し続けていますが、記事とグラフから考えましょう。

\_\_\_\_\_ 年から \_\_\_\_\_ 年まで

【2】出生数が増えない原因について、厚生労働省はどう分析していますか。説明しましょう。

\_\_\_\_\_

【発展学習】人口減少に歯止めをかけるには、どうしたらよいと思いますが、あなたの考えを書きましょう。

\_\_\_\_\_

※読売新聞社発行のワークシートを使用。(毎週水曜日配信)

〈授業の流れ〉

- ①ワークシートを読み、記入する。
- ②答え合わせ&どんな意見を書いたか、周囲の人と話し合う。
- ③テキスト・資料を読む。(以上1コマ目)
- ④意見の構想を立てる。
- ⑤400字意見文を清書し、提出する。(以上2コマ目)



〈補足〉

- ・社説を中心に、トピックに対応した新聞記事を資料として配布し、解説や補足説明、意見のまとめ方の参考となるようにする。



※HPでも情報検索は可能だが、なるべく紙資料を配布。

- ・生徒の書くスピード、指導者側の評価のし易さ等も考慮して、400字意見文が基本。
- ・翌週の授業までに評価（ABC）を行なって返却。優秀なものの紹介をする。
- ・添削は最小限（3箇所程度／1人）にとどめ、コメントする。生徒自身が該当箇所の推敲を行ない、生徒同士で確認し合う。
- ・ノートにきっちり貼り、解説プリントにはラインを引き、努力を可視化する。

〈授業アンケート結果〉

授業プリント、小テスト等の工夫がされている。	授業で話し合ったり、発表したりすることを通して、考えを深めることができる。	自分の知識や技術のレベルが確実に伸びていると感じる。	社会の出来事に目を向けるようになった。	社会の諸問題に対して、自分なりの考えを持つようになった。	
89%	79%	53%	84%	68%	あてはまる
11%	16%	26%	16%	21%	大体あてはまる
0%	5%	21%	0%	11%	あまりあてはまらない
0%	0%	0%	0%	0%	あてはまらない

(12月実施 回答数 19)

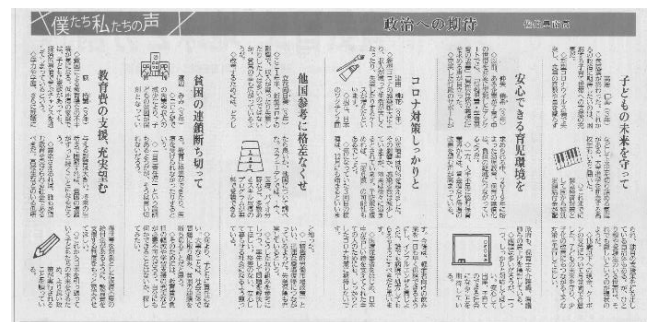
生徒はこの講座に対して「いろいろな文章をかなり読ませる」と評していた。抵抗感もあったかも知れないが、最終的には肯定的意見が多かった。社会に目を向け、その問題を自分事として考える機会とすることができた。

(4) 各種コンクール等への応募

〈目的〉生徒のモチベーション維持、また、その高揚を図るため。

〈応募先〉

- ・第12回いっしょに読もう新聞コンクール
- ・大阪経済大学第21回フォーラム 17歳からのメッセージ
- ・第7回私の折々のことばコンテスト
- ・JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト
  - ※国内機関長賞1名受賞
- ・第71回大分県学校新聞コンクール
  - ※入選
- ・切り抜き新聞グランプリ
  - ※学校賞受賞
- ・意見文の投稿 (2021年11月17日大分合同)



〈所感〉団体やクラスメイトが入賞することはもちろんのこと、各自が参加賞を頂けるだけでも、頑張ったことが実を結ぶように感じられたようである。さらに積極的に取り組もうとする姿勢が窺えた。

#### 4. 今後の課題

今年度、実践計画に挙げた中でやり残したのは「他教科におけるNIE実践の集約」である。他教科・他学科で行なわれているNIEの実践があるにも関わらず、集約して形に残すことができなかった。

実践目標3「連携の取れた組織体制の構築」を達成すべく、連携・組織の在り方を再考し、取り組みのさらなる発展を図り、子どもたちの成長に資する活動を行なっていきたい。



## 2021 年度大分県N I E 実践指定校

校種	学 校	学 校 長	実践代表者	指 定 年 度
小学校	中津市立三郷小学校	岸原 宏	瀬口 保美	2021
	佐伯市立八幡小学校	小嶋 眞二	川野 弥生	2021
中学校	竹田市立緑ヶ丘中学校	佐竹 正敏	佐藤 美登里	2017
	日田市立戸山中学校	伊藤 和彦	三浦 僚太	2019
	大分市立戸次中学校	上杉 洋一	小野 友祐	2019
高校	大分県立大分舞鶴高等学校	檜崎 信浩	道中 聡	2015
	別府溝部学園高等学校	佐藤 清信	堀井 忠大	2017
	大分県立佐伯豊南高等学校	今西 恒夫	小坂 吏香	2021

## 2021 年度大分県N I E 推進協議会の活動

1 学期 ～夏休み	第 12 回「いっしょに読もう！新聞 コンクール」	8/21	第 100 回記念N I E 実践研究会
4/10	第 96 回N I E 実践研究会	9/8	第 12 回「いっしょに読もう！新聞 コンクール」出品締め切り
5/8	第 97 回N I E 実践研究会	10/9	第 101 回N I E 実践研究会
5 月	県N I E 推進協議会総会（持ち回 り開催）	11/20	第 102 回N I E 実践研究会（佐伯開 催）
6 月～	第 71 回「県学校新聞コンクール」 募集開始	12/8	第 71 回「県学校新聞コンクール」 出品締め切り
6/12	第 98 回N I E 実践研究会	12/11	第 103 回N I E 実践研究会
7/10	第 99 回N I E 実践研究会	1 月	研究会 100 回記念誌を配布
8 月	県N I E 懇談会（実践代表者の報 告資料配布）	2/26	第 104 回N I E 実践研究会（第 6 回 N I E 子ども会議）
8/16・17	N I E 全国大会札幌大会（オンラ イン開催）	2 月	N I E 実践報告会（実践報告集配 布）

## ■ 100回記念誌を発行／県NIE実践研究会

2012年9月に発足した教員の自主研究組織「大分県NIE実践研究会」は、2021年8月に開催100回を迎え、記念誌「新聞でわくわく 楽しくなければNIEじゃない」を発刊しました(A4判72ページ)。

設立から100回までの歩み、NIEに取り組んできた教育関係者や児童生徒の思い、研究会から広がったさまざまなNIE活動などを紹介しています。

研究会は、校種・職種・地域を問わず自由に学び合える場になっています。毎月第2土曜日に大分市で開くことを基本としていますが、本年度は11月に佐伯市でも開催しました。記念誌は、研究会の会場でも無料配布します。興味ある方は事務局まで問い合わせください。



## ■ オンラインで意見交換／第6回NIE子ども会議

「第6回NIE子ども会議」は2月26日にオンラインで開催しました。県内の小中学生と高校生5人が出席。「心に残ったNIEの授業や活動」や「NIEで付いた力や役に立ったこと」「今後新聞とどう付き合っていきたいか」などについて話し合いました。



司会はNIEアドバイザーの永松芳恵・臼杵市立佐志生小学校教頭が務めました。

児童生徒は、朝学習や授業、委員会活動などでNIEに取り組む様子を紹介。「読む力や書く力が付いた」「自分の考えを発表するのが得意になった」「授業では出会えない人の思いを考えるようになった」「地域に目を向けるようになった」「視野が広がった」などとNIEに取り組んだ感想を発表。今後も新聞を読み続け、「自分の興味を広げ、夢を持ち、活躍したい」「生き方を考えるきっかけにしたい」「確かな情報を見極める力を身に付け、情報化社会を生き抜いていきたい」などと話しました。

## 大分県N I E推進協議会 会則

- 第1条（名称） 本会は、大分県N I E推進協議会と称する。
- 第2条（目的） 本会は教育界と新聞界が協力し、新聞を生きた教材として活用するための研究と実践を通して教育内容を豊かにするとともに、情報化社会における情報活用能力を高めて、幅広い人間形成に役立たせることを目的とする。
- 第3条（事業） 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。  
○N I E実践指定校・実践者を選定し、日本新聞協会に推薦  
○N I E実践指定校・実践者の支援、助成  
○N I Eに関する研究会の開催、実践報告書の作成  
○N I Eに関する普及、啓発活動  
○その他、本会の目的達成上必要と認めた事項
- 第4条（会員） 本会は本会の目的に賛同する次に掲げる者で構成する。  
○大分県教育委員会、大分市教育委員会、大分県立学校長協会、大分県中学校長会、大分県小学校長会、大分県私立中学高等学校協会の各代表  
○N I E実践指定校の代表  
○大分県報道責任者会加盟の新聞・通信8社（朝日、大分合同、共同通信、時事通信、西日本、日経、毎日、読売）の各代表  
○その他、本会で必要と認める団体・個人
- 第5条（顧問） 本会に顧問を置くことができる。顧問は本会の目的達成のため助言をする。
- 第6条（役員） 本会は次の役員を置き、総会において会員の中から互選する。  
○会長 1人  
○副会長 若干名  
○委員 若干名  
○監査 2人



役員の仕事は次の通りとする。

○会長は本会を代表し、会務を総括する

○副会長は会長を補佐し、会長が欠けたときは職務を代行する

○委員は会務を処理する

○監査は会計を監査する

役員の仕事は1年とし、再任を妨げない。

第7条（総会）

本会は年1回定期総会を開く。

○総会は会長が招集し議長となり、事業計画、運営に関することを決定する

○その他会長または会員の多数が必要と認めた時に、臨時総会を開くことができる

第8条（委員会）

委員は必要に応じ委員会を開く。委員会は事業計画の遂行に必要な事項を協議、決定する。

第9条（経費）

本会の運営に関する経費は、加盟する新聞・通信社の会費および個人・団体からの補助金、その他の収入を充てる。会費は新聞社が年額8万円、通信社が4万円とする。

第10条（事務局）

本会の事務局を大分合同新聞社内に置く。

第11条（実践研究会）

NIE推進のためのワーキンググループとして小中学校、高校、特別支援学校の教員等による大分県NIE実践研究会を置く。

第12条（事業年度）

本会の事業年度は毎年4月1日から、翌年3月31日までとする。

第13条（補則）

この会則に定めるもののほか、本会に必要な事項は別に定める。

付則

本会則は2010年6月4日から実施する。

改定

2013年6月11日

2015年6月22日

## 2021年度大分県N I E推進協議会役員等

- <顧問> 岡本天津男 大分県教育長  
佐藤 光好 大分市教育長
- <会長> 堀 泰樹 大分大学名誉教授
- <副会長> 永楽 仁八 大分県立三重総合高等学校長（県立学校長協会代表）  
中西 勇 大分市立鶴崎小学校長(県小学校長会代表)  
生野 京子 大分市小中一貫教育校賀来小中学校長（県中学校長会代表）  
小山 康直 大分高等学校理事長（県私立中学高等学校協会長）  
檜崎 信浩 大分県立大分舞鶴高等学校長(実践指定校代表)  
小田圭之介 大分合同新聞社上席執行役員編集局長（新聞・通信社代表）
- <委員> 三浦 一雄 大分県教育庁高校教育課長  
武野 太 大分県教育庁義務教育課長  
野田 秀一 大分市教育委員会学校教育課長  
高嶋 健 朝日新聞社大分総局長  
堺 拓二 読売新聞社大分支局長  
荒木 隆則 時事通信社大分支局長  
久保 祐一 共同通信社大分支局長  
西山 忠宏 西日本新聞社大分総局長  
松尾 哲司 日本経済新聞社大分支局長（監査）  
江口 一 毎日新聞社大分支局長（監査）

---

### <N I Eアドバイザー>

- 佐藤由美子 大分大学教職大学院特任教授  
塩川 美紀 元教諭  
永松 芳恵 臼杵市立佐志生小学校教頭  
平山 立哉 大分市立津留小学校教頭  
安東 浩子 豊後高田市立河内中学校教頭  
佐藤美登里 竹田市立緑ヶ丘中学校教諭  
小坂 吏香 大分県立佐伯豊南高等学校教諭  
田邊 玲子 大分県教育センター指導主事兼課長補佐  
佐田 香織 大分県教育庁佐伯教育事務所指導主事

- <事務局> 事務局長 三股 秀明 大分合同新聞社地域コミュニケーション局地域連携室長  
同次長 井上 明 // 地域連携室シニアマネージャー  
事務局員 佐藤 良昭 // 地域連携室マネージャー  
// 小代 純子 // 地域連携室  
// 田口 麻加 // 地域連携室





＜発行＞2022年4月

大分県NIE推進協議会事務局

〒870-8605 大分市府内町3-9-15(大分合同新聞社地域連携室内)

☎097-538-9729 fax097-538-9810 ✉nie@oita-press.co.jp